

6/14 住民意見交換会（於：西荒瀬コミセン）での主なやりとり概要

- 遊佐町沖が促進区域で酒田市沖が有望な区域とスピードの違いが出たのはなぜか。
→（県）遊佐町沖の方が先に議論に入った（平成 30 年度～）ことによる。
- 再エネ海域利用法において、有望区域となるには漁業者の了解を得ることとなっている。聞いた話によれば、漁業者全員の話し合いがなされない中でやっていると聞いた。1 回白紙に戻すべきではないか。
→（県）有望区域として整理されるための想定海域を定めるにあたっては漁業関係者の意見を頂いているが、共同漁業権区域を情報提供することで県漁協から異論ないという回答を得ている。その後、部会でも特に異論がなかったため国に情報提供を行ったが、漁業者にもいろんな意見があると承知しており、しっかりと話をしていく必要がある。
- 最大受電電力 50.4 万 kW とあるが、これは最大なのか。エネルギー戦略における開発量目標を増やすという議論があるが、これとの関係はどうか。
→（県）東北電力 NW に接続可能な最大の容量がこの数字となっている。エネルギー戦略の開発量目標とは直接リンクしない。
- 海岸林の砂草地に風力発電を作る話があり、飛砂による影響もあることから反対していた。それだったら海に作ればよいと思っていた。東日本大震災で電気の重要性を感じており、地元で電気を作れるというのは重要。日本海側に風力発電ができれば、復興にも役立てられ、地元の人たちも心強いところがある。原子力と違い問題もないと思うので、ぜひ洋上風力発電を進めてもらいたい。
→（県）企業局の風力発電を確認したが、飛砂対策と植生に取り組んでいるようであった。また、災害時の電源確保という点では、例えば蓄電システムの導入なども考えられる。
- 部品の製造工場は発電施設の立地先とは必ずしもイコールでないと思う。地方都市で、発電施設の製造工場と発電施設の立地が近接している例はあるか。青森から新潟まで拠点港がならぶため、関連産業立地について地域間競争もあると思う。他港に対して酒田港が優位に立つという根拠はあるか。流動的

であるなら、現時点で地域経済の救世主となるような表現は控えてもらいたい。

→ (市) 地方都市で、発電施設の立地に部品製造拠点が集積している事例は把握していない。ただ、建設部材や機材を地元から調達することはあるし、建設後の保守・メンテナンスの拠点となる可能性はあるので、そういった拠点を誘致したいと考えている。

○ 遊佐町沖では洋上風力から送られる電気は遊佐町で使えず全部都会に送られると聞いた。

→ (県) 遊佐町沖については、もちろん事業者の提案内容によるが、必ず地産地消できるような取組み(例えば公共施設など)の提案を求めている。そういった意見が多数出れば、酒田市沖についても事業者に求める地域振興策に盛り込むことになると思う。

○ 浮体式について、実証段階と聞いているがペイできるものなのか。また、風力発電の設備メーカーはほとんどが海外と聞いているが、国産品の展開はされているのか。県としては情報をつかんで、地元の方にも情報提供してもらいたい。

→ (県) 日本の海象条件が海外と比べると厳しいこともあり、大型化が進んでおらず、技術的にも発展途上となっている。採算性もまだこれからと理解している。また、国産品の導入は現状なく、国においても洋上風力ビジョンなどの計画を立て、浮体式を含めて力を入れている。地域産業の活性化に役立てていくため、情報収集、共有させていただく。

○ 災害時の電力供給という期待の声があるが、能登半島地震では全て停止した。また、日本海側の活断層等の調査がなされておらず、地震や津波に対する対策は全くできていない。期待するというのは私の知る限り無理だと思うので、違うということであればお答えいただきたい。また、景観や健康被害のことを考えると、岸から22.2キロ以上離してほしいと思っている。

→ (県) 国の見解としては、電気事業法などにに基づき、我が国の厳しい自然条件を踏まえた上、全国一律でなく地域の諸条件に耐えられる風や波浪、地震荷重に対して安全であることを求めている。地震は500年に一度、台風は50年に一度の規模に対し、発電設備が構造上安全であることが求められる。安全に関する技術基準は諸外国に比べ厳しいといわれるが、中長期的にわたる安全性の確保に努めていきたいとのこと。また、海底の隆起など、様々御意見があるが、少なくとも遊佐町については、地盤、地質調査の上、厳しい審査を経

て認証されるということである。意見は受け止めた上で、国にも説明を求め伺いたい。

○ (意見) 地域産業の創出という話があった。まずは地元の雇用を最大限に考えてほしい。酒田共同火力は雇用面で地域に大きく貢献してきた。洋上風力発電事業の雇用力がどれくらいあるかわからないが、雇用を一番に考えていただきたい。

○ 意見交換会が7回予定されているが、全会場の定員合わせても酒田市の人口の100分の1にもならない。高齢者など、他の市民に知ってもらおうというのは無理だと思う。この後の意見交換会の予定はどうか。

→ (県) 地域の代表の皆様にお聞きしてこういったやり方になった。まずは7つの中学校区で開催した上で、さらに何回やるかは今後検討させていただく。

○ 山形県では、電力の供給基地化を目指しているが、洋上風力で生まれる電気をどこに売ろうとしているのか。また、酒田市は電気の地産地消について、20年後、30年後に、何に電気を使うか、地域の経済の中でどのように使うか。

→ (県) エネルギーはなるべく自立的にコントロールできるのが望ましいので供給基地化という目標を掲げているが、地産地消最優先にしていきたいと思っている。その上で、日本全体でカーボンニュートラルにも取り組む必要がある中、CO₂フリー電力が必要だということに供給できる取組みをしていきたい。

(市) 地産地消を増やしていき、その先どこに電気を使ってもらうかは、やはり地元の企業、そして、再エネを使うことを目的に酒田市に立地してもらって企業に使ってもらうのが目標である。地産地消ができる地域だということを前面に出して立地につなげていきたい。

○ 現状、陸上風車の近くにいると寝られない。不安に感じているがどう考えているか。酒田市は住宅街が海に近いので、騒音に対してどう考えているか。

→ (県) それが起こらないようにしていく必要があると考える。遊佐町の例であるが、低周波を含め、環境への対応を講じることを事業者を求める旨、意見とりまとめにも盛り込んでいる。酒田市沖についても事業者に求めていく方向で検討することが考えられる。離岸距離については、遊佐沖は陸から1,852mの陸側にはブレードも含めて入らないようにという条件を課している。御意見を聴きながら、どの程度の離岸距離かを検討する必要もある。

- 選定事業者一覧に複数社の記載があるが、どういうことか。
 - (県) 複数の事業者がお互いの強みを持ち寄って入札に参加するのが通例であり、それぞれが出資して合同会社を立ち上げ、地域の一員として地元で事業所を設け事業を進めていく。

- 酒田市は市民の何%くらいに説明することを目指すのか。
 - (市) 目標は設定していないが、7回の説明会後にさらに意見を重ねて聞く必要があれば、再度の意見交換会開催を検討したい。

- 災害対策について、世界的に厳しい基準というのは確かにそうだが、風力の本場である欧州には地震がない。日本は北海道から沖縄まで地震が分布しており、欧州と基準が違うのは当たり前で、それをやらないできたのが1月1日の地震でばれてしまったと考えている。
 - (県) 安全基準については国の基準となるため、地震対策については御意見いただいたとおりでと思う。海外製で大丈夫かというのは事務的ではあるが、国にも見解を求めていく。ただ国としては、日本国産が中々無い中で、日本製であれ海外製であれ、国の厳しい基準に適合しないと建設は認められないというのが見解である。また、ブレード落下や支柱の倒壊など、事故は起きている。国において原因はわかりつつあり、今後の対策に生かせるよう検討していると承知しており、しっかり責任をもって対応いただきたいということで、いただいた意見は国にしっかり伝える。

- 陸上風力の音で眠れないという話があったが、そういった健康被害は起きている。不安や懸念として「騒音の影響」と軽く記載があるが、健康被害について明示した方がよい。また、風車が建つ予定の場所に、魚類の産卵の場所もあり、振動による影響が心配されるが、漁業をどのように発展させていこうとしているか。
 - (県) 事業者にしっかりと対策を求めていくことになる。遊佐町の意見とりまとめでは、環境配慮事項という項目に、そういった影響に対する不安の声の払拭に向けた対応を盛り込んでいる。
 - (市) 洋上風力の影響は少なからずあるかと思う。大きいのか小さいのかわからないところがあるが、温暖化に伴う漁獲量への影響なども出てきており、付加価値の高い、稼げる漁業を目指すべきところと考えている。

- 酒田市の資料にある、将来の浮体式洋上風力発電の拠点化との記載が意味するところは何か。

- (市) 浮体式の商業化の可能性を見据え、今の段階から着床式だけでなく浮体式についても検討していこうというもの。実際に洋上風力発電事業者が決まった場合はそこも見据えて提案していただけるようなものを地域振興策として考えているということ。
- (意見) まず、宮海の眺望点が抹消されているが、洋上風力発電の推移を見守る眺望点として重要であるため復活してほしいと思う。また、遊佐の先行事例に学んでほしいと思う。遊佐のエネルギー風車では蓄電池を併設し、電力を欲しい時に常に供給できるようなあり方だったはずだが、今は自由化されて売り上げ第一になっている。また、遊佐では再生可能エネルギーが 200%、300%となっているが、RE100 で域外の企業に取られてしまい、生産して供給するだけの場所にならないよう、市としても考えてほしい。
- (意見) 地震津波対策に耐えられる構造にしてほしい。また、酒田市の資料では漁業振興策について触れられていなかった。もっと具体的に触れて欲しい。
- (県) 地震対策については国の基準になるので、しっかりお伝えしていく。こうした意見を踏まえ、酒田市とも相談の上、事業者に求めるよう対応を考えていく。漁業振興策については、県漁協のお力添えもいただきつつ、洋上風力導入の前提となる取組みについて酒田市沖の漁業者と意見交換を進めていく。
- (市) 今回は地域振興策についてのたたき台を示した。漁業協調・振興策については、漁業者との勉強会を引き続き行っていくが、今回の意見交換会は地域振興策についてのみ御意見を伺う予定としておりこういう中身になっている。
- (意見) 先ほど酒田市から漁業に対する影響が大きいかわからないという説明があったが、はっきり言って我々のやっている沿岸漁業は廃業しないといけない。勉強してから言ってほしい。

以上